

# 忘れ得ぬ名歌・辞世歌 (三)

古藤田 太

(会員・弥生町江良)

## (1) 豊臣秀吉

つゆと落ちつゆと消えにしわが身かな

難波の事もゆめの又ゆめ

慶長三年八月十八日未明、太閤秀吉は伏見城の一室で息を引き取った。享年六十二歳、病名は労咳ろうがいであったと云う。

下克上の戦国の世に持ち前の才智で泳ぎさり、遂に天下を掌握した秀吉だが、この歌にはその面影はさらに無い。わが児可愛さの余り、体面も何もかなぐり捨て一人の裸の人間として懇願を繰り返したと伝えられる。

## (2) 相馬照子

うつそみの世にすぐれたる人と伍みありし  
二十年は生きの甲斐ありき

相馬照子は、近代佐伯を代表する知名人藤田茂吉の娘で、大正十一年頃「春よこい早くこい」の童謡で日本全国に一躍名をなした歌人であり、学者でもあった。相馬御風の妻となった人で、当時まだ珍しい東京女子大学校を卒業をされた才媛で、短歌を嗜たしなまれていた。照子は昭和七年七月十日、主人の郷里新潟県糸魚川の実家で、四十四才の若さで死去した。主人にこの感謝の歌を残している。素晴らしいことだと思う。

## (3) 永井隆

祈しき朝の光のさしそむる

荒野にひびけ長崎の鐘

今次大戦犠牲者。永井博士は有名、説明を欠きたい。

(4) 良 寛

あづさる春になりなば草の庵と

とくいで来ませ会いたきものぞ

やがて、良寛危篤の知らせが貞心尼に届くと、冬の塩入峠を越え、木村家にたどり着いた。

いついつとまらにし人はきたりけり

今はあひ見てなにかおもはむ

会った喜びもつかの間、良寛は示寂した。天保二年の一月のことであった。貞心尼は良寛を忘れ難く、互いに読み交わしていた相聞歌を「蓮の露」にまとめた。この歌集が良寛を天下に知らしめることになった。

貞心尼は弟子二人の証言によると、美しい女性であったと云う。

地名のルーツ

◆久留須(直川村)・場照山(蒲江町)

キリシタン関係では、十字架クルスに基づくクルシバ、久留須などが残っている。野津の烏岳(カラスダケ)はクルス岳、蒲江の場照山(パテルヤマ)はパテルン山が起源だともいわれる。

〔大分の地名〕梅木秀徳

◆城下町と地名

城下町が発達すると、それに伴う地名が生まれる。丸の内、二の丸、三の丸、大手前、大手町、外堀、内堀、ヤグラ、殿町、屋敷町から鉄砲町、弓町、鷹匠町、仲間町。さらにこの外に商人町が発達し、魚町、米町、塩町、万屋町、検物町、小物座町、茶屋町、紺屋町、畳屋町などが生まれ、外人の住む唐人町や各国商人の住む豊後町、博多町も出来る。本町などが商業の中心となり、上町、中町、下町、さらに新町、新地と開けてくるし、小路の名も出てくる。

〔大分の地名〕梅木秀徳